



左が元の琵琶嶋神社立身弁才天像。
(写真) 右が植草削空師の彫刻になる復元八臂弁才天座像。



「みたまのふゆ」とは、私共が常に蒙りいただいている大神様の恩徳、加護、御神威を尊称した言葉です。人間は自分ひとりの力で生きてゐるのではなく、つねに「みたまのふゆ」をいただいで、生かされてゐるのです。

復元立身弁才天像

古来、琵琶嶋神社に祀られてきた弁才天のご神像は、瀬戸神社本社のご神像群とともに、横浜市の文化財にも指定され、収蔵庫に厳重保存されてゐます。また、もともとは八臂といつて、八本の腕に宝珠のほか、弓、矢、剣などを持つ姿でしたが、六本の腕は失われてをりました。これを元の姿を想定して復元し、新たなご神像がこのほど完成しました。正月の金沢七福神巡り参拝のみならず、この御像を拝観していただく予定です。

なさまにはこの御像を拝観していただく予定です。この復元神像を作製されたのは、横浜市内在住で仏師として製作作業や彫刻教室の活動もされてゐる植草削空師です。植草さんのご先祖の植草家は、江戸時代まで瀬戸神社に仕える社家のひとつで、鶴岡八幡宮の八乙女と呼ばれる巫女として神仕へもするお家柄でした。そのご縁もあり、一般の復元作業にも誠心誠意のご協力を下されました。紙面ながら感謝申し上げます。

令和四年祭事曆

- ◎ 一月 一日 歳旦祭
- ◎ 鶏鳴神事
- ◎ 二月 二三日 天長祭
- ◎ 三月 二日 春季大祭
- ◎ 祈年祭・合祀神例祭
- ◎ 四月 二九日 昭和祭
- ◎ 五月 一五日 例大祭
- ◎ 神社本廳献幣使参向
- ◎ 琵琶島弁天社・神輿渡御
- ◎ 六月 三〇日 大祓式
- ◎ 大祓人形納め・茅の輪神事
- ◎ 七月 一〇日 天王祭出御祭
- ◎ 本社神輿御霊入・宮出渡御
- ◎ 七月 一二日 三つ目神楽
- ◎ 無形文化財湯立て神楽
- ◎ 七月 一七日 天王祭巡幸祭
- ◎ 天王神輿町内巡幸
- ◎ 七月 二四日 手子神社例祭
- ◎ 九月 一日 浅間神社例祭
- ◎ 九月 一七日 熊野神社例祭
- ◎ 無形文化財湯立て神楽
- ◎ 一〇月 一六日 手子神社秋祭
- ◎ 無形文化財湯立て神楽
- ◎ 一一月 三三日 秋季大祭
- ◎ 新嘗祭
- ◎ 一二月 八日 歳の市
- ◎ 開運熊手授与
- ◎ 一二月 三一日 大祓式
- ◎ 大祓人形納め
- ◎ 毎月 一日 月次祭

米倉家「三候大明神」と「宗源宣旨」

江戸時代、今日の金沢区瀬戸には、横浜市内でただ一つの大名である米倉家の陣屋がありました。このほど、横浜市歴史博物館で「横浜の大名（米倉家の幕末・明治）」といふ特別展が開催され、そこに米倉家の神社関係の資料も展示されました。そのなかのいくつかを、ここに紹介してみたいと思ひます。



左に載せた古文書の写真は、

江戸時代に神祇道管領として全国的神社の祭神のことや神職の資格に関することを司つてゐた京都の吉田家から出された「宗源宣旨」と呼ばれるものです。特定の人の靈魂を、神社に祀るべき祭神とし、それに神さまとしての神号を授与認定するものとなつてゐます。



用紙は薄墨色の特殊なものです。これ天皇の意思を表明するが、

る宣旨とか繪旨と呼ばれる文書の形式になつたもので、吉田家の御朱印が重要箇所によくとも捺されてゐます。

江戸時代の後半になると、大名のご先祖の靈を、神道の神として神社を創設して祀ることが多くなつてきます。

米倉家は、元は甲斐の武田家に仕えてゐましたが、武田家が滅んだ後は徳川家に従ひました。

甲斐の米倉家の初代とされるのが「信繼」で、その子孫の「重繼」は武田信玄の家臣として活躍し、最期は長篠の戦ひで討ち死にしたといふ武勲の人でした。徳川家に仕へたのち、大名に出世したのが「昌尹（まさただ）」でした。

この三方のご先祖にそれぞれ「靈神」の号が贈られ、次いで三柱の靈を一柱にして「三候靈神」とされます。さらに「三候靈神」から「三候明神」、「三候明神」から「三候大明神」と神号が格上げされる形で授与されていきました。かうした経過が判明する他に例の少ない貴重な資料でもあります。

金利谷町鎮座 手子神社

金利谷町総鎮守の手子神社は、もとの地の領主伊丹左京亮が、文明五年（一四七三）瀬戸神社の御分靈を宮ヶ谷の地におまつりしたものです。

延宝七年（一六八〇）、伊丹氏の子孫、三河守昌家の子で、江戸淺草寺の智樂院忠蓮僧正が、現在地に遷祀して以来、金利谷一郷の総鎮守として信仰をあつめて來ました。

明治六年村社に列格、大正十二年の大震災で倒壊しましたが、同十五年再建し、昭和四十五年には御屋根も総銅板葺きに改修し、一段と御神威を加へました。

御祭神は瀬戸神社と同じく大山祇命、例祭日は七月十七日（現在はその後の日曜日）ですが、十月十五日（前後の日曜日）の秋祭りには、古式豊かな湯立神樂が昔ながらの伝統を守つて行はれます。境内の洞窟にお祀する竹生島弁才天は、金沢八景のひとつ「小泉の夜雨」の中心地にあつたもので、厄除け、開運の福神として信仰されてゐます。



現在には残ってをりませんが、この三候大明神をお祀りする立派な御社殿も造営されてをりました。その場所は、泥牛庵の裏山の南西側の中腹あたりと推測されますが、敷地の大部分は京浜急行の線路が敷かれる過程で削られたのではないでせうか。米倉家には三候大明神の祭礼の絵図も残ってをり、賑やかな祭礼行列の様子が窺へます。そこには湯立て神楽の釜も描かれてゐて、瀬戸神社の神職が神楽を奉仕してゐたのでせう。

が齋行されてゐたことです。瀬戸神社の神職であつた佐野家や柳田家は、湯立て神楽を奉仕する鶴岡職掌家であるだけでなく、代々、吉田家から「神道裁許状」といふ神職の免許状を受けて神社に奉仕してゐました。そして享保三年（一七一八）には吉田家の当主でもある卜部兼敬の参詣もあり、「三寫大明神」の神号額を奉納してゐます。瀬戸神社と京都吉田家との長年の交流があつたとみられます。ですから吉田家と米倉家をつないで、祖霊の霊神号を頂戴する過程では、当社の神職がその仲介役を担つてゐたことも想定されるでせう。

三候大明神が鎮座するときの祭礼では、吉田家からこれを認定する祝詞が宣旨に付随して下付されてゐます。（写真上）

この祝詞の用紙は黄紙になつてゐます。やはり吉田家の朱印が捺されてゐます。

遷座祭で誰がこの祝詞を読んだのかは記録がありませんが、吉田の裁許状を有する瀬戸神社の神職が奉仕したのに相違ないでせう。

朝比奈町鎮座

熊野神社

社伝によれば、鎌倉に幕府を開いた源頼朝が、その東北の守りとして熊野三社をここに勧請したものとひびきます。仁治二年（一二四一）、鎌倉幕府は朝比奈切通しの開鑿に全力を挙げ、執権北條泰時は自ら現場に臨んで工事を指揮しました。社殿の建立もこの頃行はれたこととせう。

その後、元禄八年（一六九五）、地頭加藤太郎左衛門尉良勝が神殿を再建してから、里人の崇敬を集め、相模国鎌倉郡峠村の鎮守として崇敬されてきました。安永及び嘉永年間には再度の修築も行はれて、明治六年村社に列しました。

昭和五十三年、氏子一同の熱意を結集して、入母屋造、総檜、銅板葺きの本殿を完成し、さらに平成御大典記念事業として新たな拝殿を建築竣功して今日に至つてゐます。

御祭神は速玉男命、伊邪那岐命、伊邪那美命の三柱です。例祭日は九月十七日で、昔ながらの古式のつとつた湯立神楽が今も続けられてゐます。

谷津町鎮座

浅間神社

谷津の町の鎮守として古来崇敬されてきました。伝説では御堂関白太政大臣藤原道長が当地に來遊し、能見堂から金沢の景勝を鑑賞したときに、正面の目の下にあるこんもりとした山を塗桶山と名付け、そこに浅間大神を勧請したといはれます。道長の来訪は史実ではありませんので、創建の詳細な時期は不明ですが、富士山信仰が関東一円に広まつた中で当地にも勧請されたものでせう。ご祭神は富士山の浅間神社と同じ木花之佐久夜毘賣命です。特に安産の御利益があり婦人の崇敬が篤かつたと伝へます。御祭神が天孫瓊瓊杵尊の御后となり、御子神等を出産されたことによるものでせう。

祭礼は六月一日の開山祭と九月一日の例祭。例祭（近くの土目曜）には谷津・東谷津・泥亀の各町内で神輿の巡幸その他のにぎやかな行事が営まれます。寛正四年（一四六三）西山松眠といふ医師が神饌田を奉納、以来、例祭には赤飯をお供へし、お下がりは崇敬者婦人が分けあつたといふことです。

瀬戸神社略縁起

大昔、今の泥亀町、大川町、釜利谷町小泉のあたりまで海が入りこみ、柳町や六浦町の塩場、南六浦、内川町内もすべて海でした。そして洲崎と瀬戸の間は、潮の干満時には急流が渦を巻き、容易に渡れぬ難所でした。古代人がここに海神を祀ったのが瀬戸神社の起原で、今から千五百年以上も前（古墳時代）のことです。

治承四年（一一八〇）鎌倉に入った源頼朝が、日頃崇敬する伊豆三島明神をこの靈域に遷祀してからは、六浦港の守り神「瀬戸三島大明神」として鎌倉幕府をはじめ上下の尊信をあつめ、その後、足利氏、小田原北条氏の崇敬も篤く、江戸時代には名勝金沢八景の中心にあつて、百石の社領を有する大社として、江戸の町民の間にも信仰者がひろがりました。

明治六年郷社に列格、戦後は宗教法人となり神奈川県神社廳獻幣使参向神社に指定。現在の社殿は寛政十二年の建造で、昭和四年の屋根を銅葺きに改め、平成二十四年には御屋根替へと修増築の御修宮事業が行われました。

御祭神

大山祇（おほやまつみ）の命

伊豆国三島大社、伊予国大三島の大山祇神社の御祭神と同じ海上交通の神であると同時に、水源地を司る山の神であり、金属、岩石、木材などの建築資材や、森林、鳥獣に至るまで、一切の生活資源は、この大神の恩徳によるものです。

天孫瓊瓊杵尊の御后となられた木花咲耶姫の御父神にあられます。

須佐之男（すさのを）の命

配祀の神の須佐之男命は、天照大神の御弟神で、八俣の大蛇を退治された神話は有名です。自然界、人間界の罪けがれや悪者を追ひ祓ひ、人々の苦しみを除いてお守りくださる神様で、別名を「天王さま」と仰がれておます。七月の天王祭りには大神輿で氏子町内をくまなく御巡りになります。

菅原朝臣道真公

天満大自在天神とも尊称し、一般には「天神さま」と親しまれて呼ばれます。書道、学問、詩文、和歌に秀でてをられただけでなく、至誠、尽忠、孝道、正義、国家鎮護の神さまでもいらつしやいます。



新社務所を

「瀬月館」と命名

瀬戸神社社務所を「瀬月館」と名付けることとしました。社務所は氏子崇敬者の御協賛を得て、令和御大礼記念事業として令和二年三月に竣功しました。

令和の年号は「万葉集」の中の「初春令月、気淑風和」からとられました。この句の「令」「和」と並ぶ文字に「月」と「淑」があります。もとより瀬戸の地は金澤八景の「瀬戸秋月」として「月」の名所でもありますので、これにも因み「瀬月」の文字をいただき「瀬月館」とさせていただきます。

拙筆で恐縮ながら宮司揮毫にて玄関に額を掲げました。

既に二階大広間は、いくつかの団体の定期会合にも利用されてをりますが、今後も各種の会合や講演会等に有意義なご利用をいただければばことに有り難く存じます。

瀬戸神社 宇三三六〇〇七

横浜市金沢区瀬戸十八ー十四

(電話) 〇四五七〇ー一九九九二

(FAX) 〇四五七〇ー一九九九四

<https://www.setojinja.or.jp>